

第5回北播磨新地域ビジョン検討委員会 議事録要旨

- 1 日時：令和3年11月30日(火)14:00～16:00
- 2 形式：対面（一部オンライン）会議
- 3 出席者：
委員：田中委員長、内藤副委員長、山本委員、徳岡武義委員、委員、徳岡和秀委員、降松委員、藤本委員（國井氏代理出席）、藤後委員、谷尾委員
（オンライン出席）：奥貫委員、
（欠席委員）：松本委員、三宅委員、依藤委員、中野委員、富澤委員、下岡委員
県側：上田局長、大西副局長、菅原事務局、事務局

4 内容

(4) 審議

[委員長]

- ・議題(1)北播磨地域ビジョン2050(案)について資料の説明をお願いする。

[事務局]

- ・資料1北播磨地域ビジョン2050(案)について説明（説明省略）
今後のスケジュールについて説明する。本日の検討委員会での意見を踏まえて、ビジョン案を整備する。整備が終われば、12月下旬にパブリックコメントを実施する予定。パブリックコメント終了後、皆様には実施結果などを報告させていただく。

[委員長]

- ・最後にパブリックコメントの話があったが、パブリックコメントを実施する期間はどれくらいか。（事務局：およそ3週間程度と考えている。）そうすると、終わるのが大体1月下旬あたりというスケジュールでよいか。（事務局：はい）

それではただいま説明のあった北播磨地域ビジョン2050(案)について、意見、補足等があれば自由に発言いただきたい。お互いにあまり敬遠せず、できるだけスムーズに審議が進むようお願いしたい。

[委員]

- ・数が多いのでまとめて発言する。先ず12ページの一番下、「歴史的に大きな被害がない」と言いきっているが、西脇市では平成16年に100軒以上の床上浸水、そして1人が死亡する災害があった。それも踏まえたうえで、それでもないということなのか。西脇市民としては、ないと言い切られると少し違和感を感じる。そして13ページの6行目、「刑法犯認知件数は県内を下回っている」とあるが、「県内平均を下回っている」ではないか。そして中ほどの表には単位がほしい。次に21ページの8行目、「AI・人口知能」の人口は工業の工だが、AIを言い換えているので人工知能という言葉はなくてもいいと思う。そして同じページの下から12行目に「空飛ぶクルマドローン」とある。それで統一するのであればいいが、空飛ぶクルマとドローンと使い分けていたところもあったので確認をお願いしたい。もう一つ21ページの11行目に、「北播磨は感染症対策としての大規模オートメーションPCRセンターなどの…」とあるが、大規模PCRセンターは検査する大規模会場だとわかるが、オートメーションがつくとわからないので説明をお願いしたい。そして、27ページ、実際にいろいろな方々からの意見なので、できるだけ尊重すればいいかと思うが、●子育てしやすい環境の整備の項目の三つ目、「子育ての障害になる発達・成長を阻害する化学物質…」は日本語としておかしいと思う。そして化学物質を完全否定しているが、農薬も一応基準に沿っていることなので、ここまで言うのは果たして

どうなのかなと感じた。それから、●高齢者福祉・医療の充実の項目の一つ目「AI技術の進歩で、障がい者…」ここは“がい”がひらがなだが、他のページでは、かなり漢字を使っていたので統一をしたら良いと思う。同じ項目の二つ目「友人のデマンドタクシー…」に類するものを、西脇市では既にやっているので情報提供する。次に 30 ページの●テクノロジーの活用の項目で公共交通についての記載がある。ここだけでなく、このビジョン案全般を通して公共交通を述べるときに、通勤・通学・観光という三つが出てくる。確かに JR に限って言えばそういう利用が多いかと思うが、一般的に公共交通というと他にも路線バスやコミュニティバスなども入ってくる。そこで一番需要が多いのは、通勤・通学よりも、高齢者、交通弱者の通院での利用だと思うので、そこに配慮した書き方も必要かと感じた。最後に第 5 章に追加されたライフデザイン集は、読みたくなるような感じでまとめられていて、非常に良い構成になっていると感じた。

[委員長]

・今の意見等に関して、何か今すぐに回答があるか。

[事務局]

・オートメーション PCR センターは、検体の採取からすべてロボットが行うということ、今、川重などが開発しているところで、30 年後にどこまで進んでいるかは別として、そういうことを念頭に置いて記述したものだ。(委員：そこに人が行って検査を受けるという仕組みは変わらないということか。) その仕組みは変わらない。検体採集の段階からロボットで行うということだ。(委員：理解した。ほかはまた検討してもらったら良いかと思う。) 改めて整備する。

[委員]

・加西市に関する記述でお願いになるが、22 ページ下から 5 行目、「最近では、加西市が地域活性化の目玉として、第 2 次世界大戦下に戦闘機・紫電改の組み立て…」とある。地域活性化ももちろん目的としており、観光振興ということも目的にしているが、平和学習というのをキーワードとして加えてほしいと思う。次は質問になるが、29 ページ、●防災・防犯意識の向上の項目の下から 2 行目、「災害時には自主防災組織、消防団、水田等が貯水機能の役割を果たしてきた。」という表現だが、水田等が貯水機能の役割を果たすのはわかるが、自主防災組織、消防団には何か言葉を足した方がいいと思うが、意図があれば教えていただきたい。

[事務局]

・最後の質問については、確かに言葉足らずで申し訳ない。そして地域活性化の鶴野飛行場については、平和学習を加えるよう検討する。

[委員]

・6 ページ目、北はりま田園空間博物館の写真のキャプションが、「北播磨田園空間博物館」とあるが、正式には「北はりま田園空間博物館総合案内所」ではないかと思うので確認してほしい。次に 9 ページ 14 行目、「取り組んでいます」は“ん”がいると思う。最後に 10 ページ右下に、マイスター工房の巻き寿司の写真が掲載されているが、「天船巻きずし」が正式ではないかと思うので確認いただきたい。

(事務局：確認して整理する。)

[委員]

・27 ページ、●子ども世代のふるさと意識の醸成・教育の項目の四つ目に、「子どもが小さいうちに、ベトナムでのような宗教心を育てるように…」と国籍が出ているが、どうしてベトナムなのか。(事務局：外国人の方に出会っていろいろと意見を聞いたが、その中のベトナムの方から、「特に私たちは宗教心を育てるのにこんなこ

とをしています。」と具体的な話を聞いたので、そういう育て方があるのかなと思いついて入れた。) 実は、三木市にはイスラム教徒のムスリムもたくさんいて、モスクもできている。ベトナムは仏教徒の方が多いと思うが、国による宗教心がそれぞれ違い、何かベトナムの宗教心が正しいかのようなニュアンスを受け取ってしまい、他の宗教に対して排他的なとらえ方になってしまったら困るなということを感じたところだ。(事務局：ご指摘の通りだ。配慮がなかったので修正する。)

[委員]

・19 ページ 5 行目に「北播磨モデルとして…」と飛躍的なことが書いてあるように思う。第 8 節までの表現と大きく様相が違うのかなと思うが、例えばこれが、第 5 章に新たに追加された中に入っている内容であれば、それを受けてということもあるのかもしれないが、少し違和感を感じた。

[事務局]

・この件については、ビジョン委員会の企画部会で新ビジョン案について説明した時に、現状や課題のところでも、できるだけ夢があるようなことも書けるなら書いて欲しいという意見があった。また、兵庫教育大学もあるので、教育を軸に何か記載をして欲しいという意見もあり、こういう表現にし起草部会で検討いただいた。

[委員長]

・今のところはもう少し手を加えたほうがよいか。

[委員]

・この第 9 節までは、北播磨の現状ということを書かれている章なので、将来の構想的なことが入っていることに若干違和感があったので申し上げたまでだ。

[委員長]

・事務局の応じた内容でよいか。(委員：はい) 先ほどの教育ということであると、加西のほうで平和教育云々というのがあったが、現状として行われていることをさらに発展させるというようなこともあるので、そういう平和教育に関することや或いは自然教育に関するようなことというのが、もうすでに現状としてあるということをつけ加えておくと、将来の展望や夢として少し収まりがよくなるのではないか。

[副委員長]

・全体を通してだが、ドローンという言葉が非常に何回も出てくる。特に、将来像を構成する 5 つの柱の生活シーンの記述で 9 回も出てくる。余りにも多過ぎるのではないかと思う。将来像以外のところでも、ドローンやそれに関連する言葉も含めると同じ言葉が 8 回も出てくる。全部で 17 回ドローンが出てくる。IT 関連で情報通信革命が起きているということはわかるが、非常に多様なあらゆるところに出てくるので回数が多すぎると思う。それからもう一つ、今のビジョンは、30 年後ということで、次の世代へ上手く引き継いでいけるかというのが大きな課題の一つかと思うが、人口が減ったり、大きな変革があったりで難しく、引き継いでいきにくいところがある。観光でも子どもたちが高齢者の方と一緒にやっていくということがあるが、次の世代に上手く引き継げないとこの地域が弱くなってしまわないか。次の世代に引き継ぐという観点から書かれていると思うが、もう少し明示的にどこかに入れるといいと思う。

[事務局]

・ドローンの回数が多いという意見だがそこまで気になるだろうか。ドローンがそれだけ注目を浴びているということだと思うが。

[副委員長]

・すごく便利なツールだと言うのはよくわかる。いろんな分野で使われているのも

わかるが、そういう情報革命というのは、いろんな面でも起きると思う。それがドローンというのをこれだけ回数を入れると、読んでいった時にすごく引かかる。同じような表現で回数が多いなと感じるが、皆さんの意見を伺いたい。

[事務局]

・5章の日記の部分の回数が多いということだが、そこはそれぞれ別の人が書いている。先に申し上げたが、やはり注目を浴びているのと、実を申し上げると30年後の技術革新がどこまで進んでいるかというイメージが、おそらくなかなか皆さんに見えない中で、一番発想としてドローンが思いつきやすかったのではないかと思っている。逆に書いた人に、ドローンを抜いて書くと言うのは説明をしにくい部分ではある。

[委員長]

・特定の単語が多いということが、何か全体に大きな問題になれば検討の必要があると思うが、説明があったように、いろいろな人が書いているということと、後半の説明のように、若い世代の方たちの一番インパクトの強い将来が、割と現実的な将来像を考えているということ、そういうのが出てくるだろうと考える。それはそれとして、反映させるのはいいのではないかと私は思う。特に単語が多いからそれを削ればいいということになると、今度はその単語を削ることでバランスが悪くなることもあるので、この点に関しては、改めて表現について考えるということではいかかがか。

[事務局]

・あと次の世代へ引き継ぐということは、おそらく日記を記載してはどうかということなので、誰かに記載してもらうことを検討する。

[事務局]

・第5章の最初の祝詞のところに、地域の人々が培ってきた思いを引き継ぎというような言葉を入れるのが望ましいと考える。それが一番伝わりやすいと思う。地域が今培ってきたこの現状が財産なので、それを後世に残していくんだということを最初に書き加えて対応したいと思う。

[委員]

・20 ページが事前にいただいた資料と書き方が変わっている。地場産業の播州織、利器工匠具、そろばん、釣り針、これらの企業数、生産額がグラフで表示されていたと思うが、これを表に換えたのは何か意図があったのか。そして利器工匠具という言い方だが、統計上の仕分けなのかと思うがイメージが湧きにくい。三木市は金物を特産にしているので、何かわかりやすい言葉で置き換えることができないかと思う。その点よろしくお願ひしたい。

[事務局]

・先に送付した資料ではここをグラフにしていたが、グラフに当初のピーク時の状態が入っていないことに気づき、そのピーク時を入れるとスペースの問題で入れることができなかったので表に換えたが差し替える。利器工匠具という言い方については検討する。意見のとおり書き方を相談したい。(局長：注意書きで説明したい。統計用語でこれを使う。監査など公式の場でもこの言葉を使うが、対外的にはわかりにくいので、注意説明という形で書くよう対応する。)

[委員]

・よろしくお願ひする。グラフでは、例えば利器工匠具では、企業数が減少しているが生産額は横ばいで推移しているというのが、すごくわかりやすかったが表になるとよくわからない。見やすさではグラフのほうがよかったと思う。(事務局：工

夫して入れるようにする。)

[委員]

・些細なことで恐縮だが、23ページの文章は、田園というものがキャッチになっていて、田園の恵みが生み出すこちよい北播磨ということで、地域の魅力を紹介しているところが私はすごくいいなと思って読んだ。その中で上から7行目、フットパスのところ、文章の続きの問題かと思うが、「公園内を歩きながら散策するフットパス・・・」と紹介がされている。その前に公園の記載があるからその続きだと思うが、一般の方が読んで公園と言うと、公園にも種類や規模感があると思うのでどうなのかなと気になった。また、フットパスは公園の中だけではなく、紹介されているような三木の街道や、加西の宿場町などもあるので、田園風景を楽しみながら歩くなど、書き方を少し変えもいいのかとは感じた。(事務局：改めて整理する。)

[委員長]

・私の方から27ページの先ほど委員から指摘のあった、多世代交流・多文化共生の最後の項目●子ども世代のふるさと意識の醸成・教育の一番最後、「ベトナムでのような・・・」のところについて。これは、子どもが小さいうちに宗教心を育み育てることによって、人間性、文化を大切にすることということで、宗教心を育てるというのはあまり日本では前面に出ないので、意識して入れたと感じられたのだと思う。そういう意味で言うと、ベトナムに限らず先ほど指摘があったように、宗教心が人間性、文化と関係するということを入れておく事は大事だと思う。そこで、ベトナムという特定の国名を出さず、そういうこともこの地域で考えたほうがいいのかということで、「国、地域、風土にあった宗教心を育てるような人間性を育てる文化を大切にすること教育」、こういうふうにすると趣旨が伝わりやすいかと思ったが、委員いかがか。

[委員]

・いろんな外国人の方と対応しているが、宗教プラス文化、習慣が違うことにより、日本の物差しで物事を見ることができない外国人がたくさんいる。私が思うのは道徳心というモラルのところであって、宗教というその言葉をここに入れると、何か絶対宗教は持たなくてはいけないという印象を持つ。無神論者の方もいれば、もちろんキリスト教の方もいる。この宗教というのは、いろんな場所であえて使わないようにしているので、道徳心の方がいいのではないか。郷に入れば郷に従えではないが、皆と調和を持って生活するために必要な心持ちというようなとらえ方の方が、少し曖昧ではあるがいいのではと考える。

[事務局]

・委員長と委員の話はよくわかる。最初その出身国にと思ったが、そうすると日本の宗教を押し付けてしまうようなイメージにもなる。それぞれの方々の出自やそれに応じた考え方もあるだろうが、共通して持っているであろう人間としての道徳心みたいなものを持ってもらいたいというふうに委員の発言から感じたので、そこは検討させていただきたい。非常にセンシティブなところなので、関係部局、国際交流などもどんな書き方をするのかというのを踏まえて検討する。外国の方に期待してもなかなか受け入れない部分もあるだろうし、彼らは彼らなりのこれまで育ってきた文化なども反映しなければいけないと思うので、書き方は検討してほしい。そして障害者の害だが、兵庫県は、ひらがなを使っていないので“害”を使う。

[委員]

・「子どもが小さいうちに、・・・」というのがキーワードで、外国人の子どもたちが非常に増えており、日本の道徳心を学んでもらうことで、将来の治安に繋がるという

ことは非常に感じているので、「子どものうちに」というのは残していただきたい。

[委員長]

・今のような微妙な表現の方法については、よりふさわしいものを検討いただきたい。

[副委員長]

・19 ページにいろいろな教育機関等があるという記載がある。また、27 ページには、●子ども世代のふるさと意識の醸成・教育という項目がある。それに関して思うのが、嬉野台生涯教育センターが歴史を学び未来を考えるということで、北播磨の 5 市 1 町のことを総括的にまとめた「北播磨学」という資料を出している。いかにつないでいくかということで、北播磨自体を舞台にした資料や研究成果を集めていくのも大事なので、この本などはいい資料だと思うのでどこかに紹介したい。せっかくいろいろと研究機関もあるので、そういう資料を学ぶところからいろいろ伝わるかと思う。

[委員]

・25 ページ 2 行目、「若い世代のメッカとなるような・・・」となっている。他のところでも「一大メッカ」と書いてあり、これは中心になるというようなことで日本語になっていると考えてよいか。（委員長：慣用的にはそうだ。）

[事務局]

・気になるようなら変える。微妙な時期なので、委員としての意見は理解できる。中心になるようななどに書き換える。

[委員長]

・メッカというのは他にも出てくる。（委員：教育のところ。）微妙な時期ではあると思うが、兵教大も使っている。

[委員]

・日本語として存在し、認知されているならば使ってもいいかと思う。

[委員長]

・兵教大が、日本の教育のメッカとして、現職の教員が集まるようなというようにいい方を多分していたので慣用的にはあるが、ただ今の時期、メッカという特定名を使って中心地であることを表現することがいいか悪いかというのは、考える時期ではあると個人的にも思う。他に意見はないか。それでは、私が気になっている点を申し上げる。29 ページ第 4 章の最初の三行だが、「SDGs の理念を基に、情報通信網の発達により想定される近未来のデジタル化社会等・・・」という表現の落ち着きが悪い。デジタル化社会が情報の発達により想定されるという言い方を、「情報通信網、或いは情報通信インフラ等の発達をはじめとして、想定される近未来のデジタル化社会・・・」の方がいいのではないか。元の表現は、デジタル化社会が通信情報網の発達を基盤とするというように見えてしまう言い方になっているので、表現を検討したほうがいいと思う。他はいかがか。ほぼ出尽くしたと考えてよいか。それでは、他に意見もないようなので、これで意見交換は終了したいと思う。ただいまの議論において出された意見については、検討して改めて委員に確認いただきたい。その確認後の修正等については、時間的なこともあるので、事務局と委員長の私とでいろいろ協議しながら、適宜進めて参りたいと思う。事務局と私との協議の中でまとめることに了承いただけるか。（委員：了承）それではそういう形で今後進めていきたいと思う。それでは、議題の 2、その他について事務局から願います。

[事務局]

・それでは、資料の 2、兵庫ビジョン 2050 について説明する。ビジョン課から依頼

があったので、この場を借りて皆様にお知らせしたい。兵庫ビジョン 2050 はビジョン課がまとめており、内容を見て気づいた点等あれば意見をいただきたいということだ。市町の委員には、ビジョン課から直接照会しているということだが、検討委員の方々は資料 2 を見ていただき、何か気づいた点等あれば直接ビジョン課へ回答いただきたい。回答先については、後程メールでお知らせするので、目を通していただければ幸いだ。参考にビジョン課の今後の予定だが、12 月に皆さんの意見を取りまとめ、長期ビジョン審議会とパブリックコメントを実施する。そして、1 月に審議会より新全県ビジョン案を答申する。そして 2 月の県議会に上程し、3 月に新ビジョン策定の予定だ。地域ビジョンについては、パブリックコメントの後、整備をして委員の方々にお知らせをし、最終的には 3 月に県民局で決定したいと考えている。

[委員長]

・今の件に関して何か質問等はないか。それでは質問はないようだが、確認したいことや、そのほかのことでも発言したいことがあればいかがか。この検討委員会は、あと何回ぐらい予定されているのか。

[事務局]

・検討委員会は、このように集まるのは今日が最後の予定だ。あとは策定まで、委員の方々に意見をいただきながら委員長とも協議して、皆様に了解を得る機会もいただきたいと思うが、集まっていたくのは今日が最後と考えている。

[委員長]

・そうなると言っておきたいことがあるという方はないか。

[委員]

・私は新地域ビジョン検討委員会が、どういうものか分からず参加した。私自身は今地域で活動していて、地域ビジョン 2050 の 3 章や 4 章のことは我々の地域で話していても出てくる。将来期待することや問題点が、言葉では、若者、交流、そして先日の未来フォーラムでは、オンリーワンやブランド、そして地域の活動として一番大事なことは楽しく活動すると言ったようなことも出ていた。実際私が楽しく活動しているのかということ非常に苦しい。何が苦しいかということ、今こうやってあげていることというのは、将来に向けての目標ではあるが、じゃあ一体何をするのか。3 章でも言っているが、地域で交流とか、人との繋がりだとかみんなが言う。次の世代の若者を入れてと言うが、実際皆さん活動していて若い人達を入れているのかという現実論。そこに我々はボランティアなので、次の世代を育てていけないといけない。つないでいけないといけない。ものすごく苦しいところにいる。未来フォーラムを見ていて、楽しく活動しましょうよという言葉が出てきた。その通りだ。やっと我々も発信にインターネットを使ったり、LINE で出欠をとったり、zoom を使ったりというのを、このコロナの中でやり始めた。先日も、私の地区で古民家が売れた。本当に 100 年以上経っている大きな家だ。買われたのは〇〇さんだ。直接話していると、古民家で民泊をしたいが、実は開発ができないと言っておられた。頑張ろう、頑張ろう何かをしようとしている人はいるが、そこで折れてしまう。面積が多すぎる。道の幅がない。農地、駐車場がない。農地転換しないと仕方がないが、田舎だとできない。こういう問題を、県や西脇市など行政が強力にバックアップしてほしい。50 年、2000 年から 30 年の 2030 年、2020 年から 30 年の 2050 年の間にいるが、こういうビジョンを私も地域で話しているときに、今何をするのかという話しをする中で、やろうとしたときに後押ししてくれるのは誰だというのが非常に問題になっている。私もこの文章を見ていて、皆さんのように細かなところ

まで見ることができなくて、大体の流れとして見ていたが、実際にやろうとしたときに、その部分が抜けている。皆困っている。未来フォーラムを見てもそうだが、個人で活動している方もたくさんいるが、皆さんその問題にぶつかっているのではないと思う。今日は県民局長もいらっしゃるが、だれに相談したらいいのか、どうしたら解決できるのかというのがない。今、非常に問題になっている。そしてもう一つ、将来何をしようかというのはいろんな意見が出るが、自分が何をしたらいいのかというのがまだわかっていない。そこをもっと PR していかないといけないと思っている。

[委員長]

・多分今の発言は、50年、2050年のことを考えたときの未来を描くだけでなく、通過点にあるところで処理するための具体的な手段・方法についてのサポートやアドバイスを、県民局のようなところでそういう窓口を作るなどして対応して欲しいということが趣旨と聞こえたがそれでよいか。

[委員]

・ほかのこともそうだが、言っても仕方がないからやめておこうと気持ちが萎えてしまう。だから、誰かがバックアップしないと、「どうせ言ってもしてくれない」という言葉がよく出てくる。そういう問題をわかっていただきたいと考える。よろしくお願いしたい。

[委員長]

・いろいろ検討いただけると思うのでよろしくお願いしたい。

[委員]

・資料1で、片仮名英語と英語の略語が多用されていると思う。例えば、28ページと30ページのVRは括弧書きにしてカタカナでバーチャルリアリティと書いてあるが、同じ28ページの●地場産業の活性化では、「VR空間を通した・・・」、●新しい産業・雇用の創出では、「VR空間ビジネス・・・」と書いてある。また、30ページの●新しい産業・雇用の創出の項目では、「Hub機能による・・・」と英語表記で書いてある。これは多分ハブエアポートなどの中心という意味だと思うが、AIやICTなどにも括弧書きはなく、VRだけに括弧書きのカタカナがついている。Hubって何だと思う方もいるのではないと思うので、統一性を考えていただければありがたい。

[事務局]

・どうするのがいいのか考える。後ろに用語解説をつけることが多いが、それが見やすいか、下に線を引いて意味を書く場合もあるので、どれがいいのか考えたいと思う。用語の整理はこれからもう1回、全面的に整理をして、どのような言葉がいいのか、センシティブなものも含めて調整する。

[委員長]

・先ほど話があったようにこうして対面で集まってビジョンを検討するという会は、何か必要があればあるかもしれないが、一応そういう状況だということを理解いただき、本日はすべての議題を終えたい。

[事務局]

・本日は活発な議論をいただき感謝申し上げます。委員の皆様に参加していただき検討委員会は、先ほど申した通り本日が最後となる。ここで改めて、県民局長より閉会の挨拶をさせていただきます。

[局長]

・本日は本当に活発な議論をいただき感謝申し上げます。ビジョンについては以前にもお話したかと思うが、兵庫県は貝原知事の最後の任期の時に、長期計画、長期総

合計画を作るのをやめた。未来が見通せない、或いはもう本当に変わっていくという状況の中で、住民の皆さんとともに、将来を見据えてこういう姿になりたいというを描いていこうと、長期ビジョンというものに切り換えをした。それがちょうど 2000 年。最初の長期ビジョンが、そして各地域においては、県民局の設置と合わせ、地域ビジョンというものができた。私はその時に西播磨県民局で地域ビジョンを作り、皆さんとともにいろいろ活動をさせていただいた。そしてこの北播磨県民局でまた、2050 年を見越した形での地域ビジョンに携わることができ本当にありがたく思っている。昨年から長期間にわたり、皆様に本当に熱心な議論をいただいた。そして、委員長にはいろいろな会合、ついこの間には未来フォーラムにも参加いただいた。お礼を申し上げる。皆様方にいろんな議論をしていただいたが、何度も申し上げるようだが、これはみんな達成していく夢だ。県民局或いは県だけでは到底できないし、市町の皆様と共にやっていきたい。そういう中で進めていくことができると考えている。だから、ビジョンを作ったから終わりということは到底思っていない。県民局予算もまだ今は予算編成できていないが、それに沿った形で予算をつけることも想定しながら、ビジョンの実現に向けて考えていきたい。最初に作った時から本当に変わった。これだけ外国の方の人数が増えると想定もしていなかった。また不況がこんなに長引くとも思っていなかった。一方でこの北播磨地域に沢山の企業が立地いただき、沢山の工業が花開いている。そしてまた、2025 年関西万博を見据えた形で、いろいろな取り組みも進められている。そういった形で地域が活性化していき子どもたちが帰ってきたい、或いは外へ出ていっても帰ってきたいというような街になっていけたらという思いだ。委員が言われたが、逆に私が西播磨県民局で進めていたのが出過ぎた杭は打たれないということだ。〇〇さんは、おそらく出過ぎた杭なので誰も打つことはできない。そういった方になっていただきたい。県民局はそういった方を 1 人でも増やして行って、地域を活性化していきたいと思っている。西播磨でもその当時、いろんな形で熱心に活動される方々と一緒になって一生懸命頑張ってきた。北播磨でもいろんな方が活動をしていただいている。そういった方々を我々は引き続き支援をして、言葉が戻るが、出過ぎた杭になっていただく方を増やしていくことで、地域を活性化していきたい。それを県民局としては市町とともに支えていきたいと考えているので、よろしく願います。本当に長い間、検討いただき感謝申し上げます。そして引き続き、この夢の実現に協力いただくよう重ねてお願い申し上げます。本当にありがとうございました。

[事務局]

・それではお集まりいただくのは最後と申し上げたが、来年の 3 月の策定までは委員の皆様には意見をお伺いしたいので、引き続き協力いただくようお願い申し上げます。それでは以上をもって、第 5 回北播磨新地域ビジョン検討委員会を閉会する。